

IV-58

景観の連なりが評価に与える影響に関する研究

秋田大学 学生員 ○ 吉田 史子
秋田大学 正 員 清水浩志郎
秋田大学 正 員 木村 一裕

1. はじめに

景観整備においては、ある一つの視点からの見え方から整備が行われている場合が多いが、人間が目にする景観は移動にともなって変化する景観、すなわちシークエンス景観であることが多い。このような場合、個々の景観では優れたものであっても、その景観の前後の景観とのつながりがいないため、景観の魅力を低下させていることも考えられる。

そこで本研究では、複数の景観の連なりにおける魅力やそれにかかわる要因を抽出し、魅力ある連続景観の創出方法について考察することを目的とする。

2. 研究概要

(1)分析方法

本研究では、連続景観に対する人々の認識構造を把握するため、はじめに個々の景観についてのイメージを明確にした。次に、連続景観に対する嗜好と入替え操作に伴うイメージの変動との関係について分析を行い、景観の連なりについて考察を行った。

(2)調査方法

本研究では、秋田空港から4つの目的地までの間に仮想の連続景観を設定し、これを調査対象の連続景観とした。調査に用いた写真はその特性によって右に示す(a)~(d)の4つに分類した。すなわち目的地までのイメージに影響を与える可能性の高いものをサブ景観とし、その間に経路景観を配置した。目的地は写真で示した2景観のほか秋田県内の木戸五郎兵衛村、ふるさと村の2景観がある。表1には連続景観の構成を示している。

調査は、秋田県在住の社会人男女38名を対象とし、面接方式で行った。被験者の年齢構成は20代、30代、40代であり、年齢構成、男女比はともにほぼ同数であった。調査に用いた評価項目は、連なり全体の嗜好に関する嗜好評価と、各写真から受けるイメージに関するイメージ評価に大別される。評価項目は、地方的景

観のイメージ要素についての因子分析の結果¹⁾から、「郷愁感」「開放感」「親近感」「機能性」「保存価値」「歴史的」を用い、4段階評価で回答を求める方法をとった。

(a)起点景観（出発地となる景観）



①起点（秋田空港）

(b)目的地



③目的地1（秋田駅）



④目的地2（武家屋敷）

(c)サブ景観（地方に特有な景観の代表例で、入替え操作を行う）



⑥サブ1（畦田）



⑦サブ2（おがほ）



⑧サブ3（野原）

(d)経路景観（実際のアクセス道で見られる景観）



②経路1



③経路2



④経路3



⑤経路4

3. 全体的な景観嗜好について

はじめに、連続景観のなかでサブ景観の配置を変化させたときの嗜好評価の変動状況について検討を行った。表2には各目的地ごとに嗜好の変動状況を示している。表中の嗜好影響度とは、嗜好に変化がみられたものの占める割合を表したものである。嗜好の変動をみると同一の操作でも向上したもの、低下したもの

表1 連続景観の構成

景観操作	連 な り の 内 容									
操作1	①→②→	⑤	→③→	⑦	→④→	⑧	→⑤→目的地			
操作2	①→②→	⑦	→③→	⑤	→④→	⑧	→⑤→目的地			
操作3	①→②→	⑤	→③→	⑦	→④→	⑥	→⑤→目的地			

反応は様々である。目的地の中では秋田駅の操作2と操作3の比較で55.2%、武家屋敷の操作1と操作3の比較で55.3%を示しており、これらの目的地は嗜好に与える影響の高い連続景観として抽出された。

表2 嗜好評価の変動状況		嗜好変化量別の度数(人)					嗜好影 響 度 (%)	
目的地	操作間比較	減少傾向		なし	増加傾向			
		-2以上	-1	0	+1	+2以上		
秋 田 駅	操作1と3	4	12	8	16	10	4	54.9
	操作2と3	4	11	7	17	10	4	55.2
武 家 屋 敷	操作1と3	5	14	9	17	7	5	55.3
	操作2と3	2	8	6	21	5	9	44.7
木 戸 五 郎 兵衛村	操作1と3	2	6	4	26	4	2	31.6
	操作2と3	2	6	6	22	6	2	42.1
ふるさと村	操作2と3	4	8	8	18	6	2	52.6
	操作1と3	4	12	8	19	6	1	50.0

4. 嗜好変動に関わるイメージ要因

連続した景観における嗜好変化に影響する要因としては、イメージによる影響と、そのイメージのつながり方の2つの影響が考えられる。そこで、まずはじめに各イメージの特性値について、イメージの全体平均、変動量(偏差の絶対値)、目的地前のイメージおよびその偏差などから、相関分析によってイメージ特性値を抽出する。次いで各イメージの特性値について重回帰分析を行うことで、各々の目的地について連続景観の嗜好に影響を与えるイメージ特性について考察した。

(1)嗜好評価に影響するイメージの特性値

各イメージ毎に相関分析を行った結果、秋田駅に関しては表3に示すように「保存価値の偏差」「郷愁感の平均値」「機能性の平均値」の相関が高く、また武家屋敷に関しては、表4に示すように「郷愁感の偏差」「開放性の平均値」「保存価値の平均値」の相関が高いことから、これらの特性値を嗜好評価に影響の高い要因として抽出した。次に、嗜好の変動と相関関係の認められた個々のイメージの特性値が、連続景観の好みに対する影響の大きさを検討するため分散分析を行なった結果、これらの特性値は有意な要因であることが明らかになった。

さらに、これらの特性値について嗜好の変動に対する回帰分析を行った。秋田駅については表5より嗜好

表3 偏相関係数表(秋田駅)	
イメージ変化量	相関係数
保存価値・偏差	0.500
郷愁感・平均	0.465
機能性・平均	0.408
開放感・平均	0.214
親近感・偏差	0.167
歴史感・偏差	0.089

表4 偏相関係数表(武家屋敷)	
イメージ変化量	相関係数
郷愁感・偏差	0.747
開放感・平均	0.707
保存価値・平均	0.604
親近感・偏差	0.425
機能性・平均	0.258
歴史的・平均	0.216

評価の変動について相関が高いものは「保存価値の偏差」であり、武家屋敷では表6より「郷愁感の偏差」に高い相関がある。重相関係数はそれぞれ0.475、0.736であった。

表5 重回帰係数表(秋田駅)

イメージ変化量	重回帰係数
保存価値・偏差	0.731
郷愁感・平均	0.165

表6 重回帰係数表(武家屋敷)

イメージ変化量	重回帰係数
郷愁感・偏差	0.825
開放感・平均	0.434
保存価値・平均	0.124

(2)イメージ変化量について

次に抽出されたイメージの特性値が、連続景観のなかでどのように変化しているかを明確にするため、嗜好が増加した場合と減少した場合に分けて比較を行った。秋田駅までの保存価値の偏差を図1に示している。嗜好が増加した人では、どちらかといえば近代的景観である都心の秋田駅を目的とした際に、保存価値が徐々に低下しているのに対して、減少した人では目的地手前の写真⑧まで正の値すなわち保存価値が上昇していたものが、目的地で急激に減少に転じているのが分かる。また、武家屋敷について郷愁感の偏差を図2に示している。郷愁感の偏差は、嗜好変動が+2では4.2、-2では9.2で減少した人の方が大きい、とくに減少した人では、郷愁感が0を境界にして正負に変動していることから、郷愁感の連続したイメージを持ちにくいためと思われる。

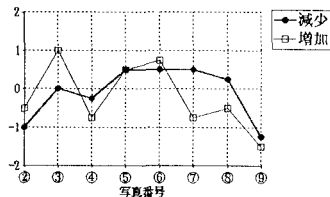


図1 保存価値の偏差変動(秋田駅)

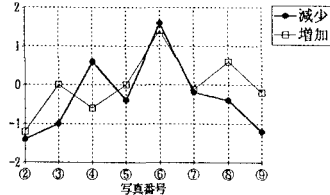


図2 郷愁感の偏差変動(武家屋敷)

5. おわりに

以上より、景観のイメージとなる因子の連なりが嗜好変動に影響を与えていることを示すことができた。個々のイメージとその特性値については、目的地景観により異なることから、さらに多くの景観や被験者についてのデータが必要である。

参考文献 1)吉田史子他、ふるさとの景観の認識特性について—「土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集」IV-50 1994